



昭和大学藤が丘病院

昭和大学藤が丘リハビリテーション病院

病院だより

2019年11・12月

第331号

病院だより第331号 (2019年11・12月号)

発行者

昭和大学藤が丘病院

昭和大学藤が丘リハビリテーション病院

発行責任者 藤が丘病院長 高橋 寛

編集責任者 広報委員長 今井 敦

〒227-8501

横浜市青葉区藤が丘 1-30

TEL

045-971-1151

最先端レーザー白内障手術装置を導入しました

昭和大学藤が丘リハビリテーション病院眼科は、フェムトセカンドレーザーを導入した白内障手術を開始しました。従来、術者が行っていた手術工程の一部をコンピューター制御されたレーザーシステムで行うことで、白内障手術を、より正確に、安全に施行することが可能となります。同時に採用した白内障手術ガイダンスシステムと連携して、最適な眼内レンズ固定を実現します。



レーザー白内障手術システムは、白内障手術の中心となる重要な工程である角膜切開、前嚢切開、核分割を、術者によるマニュアル操作ではなく、コンピューター制御されたレーザーにて正確に施行することができます。このレーザーを用いた白内障手術は欧米を中心に多くの国で取り入れられています。

水晶体嚢に円形の窓を作成する前嚢切開は、熟練した術者であっても多少のずれはやむをえません。レーザー白内障手術では、設定した大きさ、位置にコンパスで描いたかのような正円に前嚢切開を作成することで、より正確な眼内レンズの固定が可能となります。

核分割では、レーザーによって事前に水晶体核を細かく分割しておくことによって、手技的な合併症を回避できるだけでなく、超音波の使用量も減少し、より低侵襲な手術が施行できます。

当院では、このようなレーザー白内障手術を積極的に使用し、多焦点眼内レンズと組み合わせ、患者さんの見え方のニーズに合わせた、質、安全性ともに高い手術を提供いたします。

また、当院では今年、国内で初承認された3焦点眼内レンズも導入しております。本製品は近方(40cm)から中間(60cm)距離において優れた見え方を提供します。3焦点の多焦点眼内レンズの登場により日常生活での見え方がさらに改善され、メガネがほぼ不要になります。



3焦点眼内レンズも先進医療適応として認められており、治療は自費となります。2焦点および3焦点とも角膜乱視を矯正できる乱視用の多焦点眼内レンズがありますので、乱視の患者さんも術後に乱視用メガネを使用する頻度は少なく、日常生活を送ることができます。

多焦点眼内レンズの手術費用に関して、患者さんに合った眼内レンズに応じた金額を設定しております。多焦点眼内レンズをご希望の患者さんは当院までお問合せ下さい。

(リハビリ病院 眼科 教授 西村 栄一)

横浜市の心臓リハビリテーション強化指定病院に指定されました

横浜市心血管疾患対策推進事業が本年10月より開始され、藤が丘リハビリテーション病院が心臓リハビリテーション強化指定病院7病院のひとつに認定されました。昨年末に、脳卒中・循環器病対策基本法が国会で成立したばかりで、横浜市の事業は全国に先駆けた取り組みであると言えます。

本事業では、各エリアで強化指定病院が中心となり、回復期から維持期にかけての心臓リハビリを普及させることを目的とし、院内体制の整備、地域連携の構築や人材育成が事業目標となっています。当院では、心臓リハビリ多職種連携委員会を設置しており、これを発展させ推進していきます。外来心臓リハビリ実施数・心肺運動負荷試験実施数は、市内随一であり、本事業でリーダーシップを発揮できるよう取り組んでいきたいと思っております。



(リハビリ病院 循環器内科 准教授 磯 良崇)

One Team 医療を目指して 中村教授によるセカンドオピニオン外来開設

プレセンターでは、中村教授の提唱する「患者さん中心の医療」の理念に基づき治療を提供すべく、様々な分野の専門医や看護師、薬剤師が会し実践するチーム医療を目指しており、患者さんの価値観に照らし合わせ、患者さんの満足度をより高める医療の実践を志しています。また患者さんやご家族への「心のケア」にも配慮しております。その一環として、この度、中村教授によるセカンドオピニオン外来を開設する運びとなりました。



中村 清吾 教授

セカンドオピニオン外来は、現在治療を担当している医療機関以外での専門家の意見を聞くことで、患者さんご自身がより適した治療法を選択するための外来になります。乳癌は約 1

割が罹患する女性最多の癌腫ですが、いざ自身が罹患した、となると、混乱することも多いかと存じます。社会的にも色々と役割を担う世代での罹患も多く、短期間に色々な決断を迫られます。治療法も日進月歩で、複雑化しているのも事実です。

そのような中で、患者さん自身も「One Team」の一員となり、より良い方針を選択する一助となる外来を提供したいと考えています。乳癌はもちろん、他の乳腺疾患でも「相談したい」とのご希望があればご利用頂けたら幸いです。

(藤が丘病院 プレストセンター 講師 榎戸 克年)

**藤が丘病院腫瘍内科・緩和医療科
通院での安全な抗がん剤治療を目指して**

腫瘍内科は、抗がん薬を中心としたがん薬物療法を専門的に行う診療科で、特定のがんに限らず幅広い種類のがんを対象としているのが特徴です。藤が丘病院の腫瘍内科は、2014年10月より診療を開始し丸5年が経過いたしました。これまで頂いたご支援に対して、地域の先生や院内の様々な診療科・部門の皆様に、まず御礼を申し上げたいと思います。2015年4月には神奈川県がん診療連携指定病院の指定を受けて腫瘍内科・緩和医療科へ改組され、2016年9月には2階から1階の現在の腫瘍センターへ引越をしております。

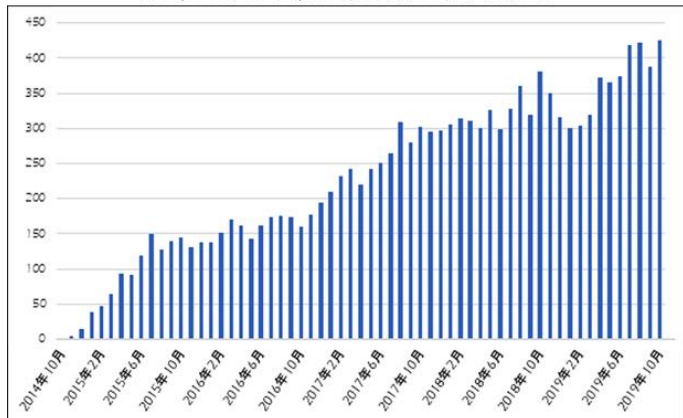


2018年度は様々ながん腫の患者さん 388名の診療を行わせて頂き、腫瘍内科らしい診療体制になってきました。

以前の抗がん剤治療は、投与後には吐き気と嘔吐が続き、食事も満足にとれず、副作用の白血球減少もあり長期の入院が必要になる、というものでした。しかし現在では、予防的な制吐剤(吐き気止め)やステロイドなどを用いた支持療法が進歩し、固形がんではほとんどの抗がん剤治療が外来通院で可能になってきました。若い患者さんであれば仕事や子育てをし

ながら、お歳を召された患者さんであれば趣味やお孫さんと過ごす時間を大切にしながら、抗がん剤治療を外来通院で行うことができます。2014年の診療開始以来、外来で治療ができる患者さんは外来で治療を施行する、という基本的な方針を立て、最近では約40件/月の入院治療に対して約370~400件/月の外来治療を行っています。

腫瘍内科の外来治療件数の推移(月別)



外来での抗がん剤治療の開始と継続には、患者さんやそのご家族の不安を和らげ、副作用の予防や副作用出現時にはその対応が遅れないように細心の注意を払う必要があります。このため、毎朝30分程度の医師・看護師・薬剤師を含めたカンファレンスで情報共有し、看護師が副作用への対応を、腫瘍センターに常駐する薬剤師が副作用対策のお薬の使い方を患者さんやご家族に指導するシステムで運用しています。このチーム医療のシステムは、当院で治療を受けられる患者さんはもとより、外来での治療継続を希望されて他院から転院された患者さんからも好評です。

最近のがん薬物療法における最大のトピックスは、免疫チェックポイント阻害薬です。京都大学の本庶佑先生がノーベル賞を受賞されたこともあり、患者さんからの問い合わせが増加しています。藤が丘病院では、免疫チェックポイント阻害薬の治療はすべて腫瘍内科で行っており、すでに100例を超える治療経験を積んできました。このお薬は、リンパ球にかかっているブレーキをはずしてがんを攻撃することが作用機序である一方で、ブレーキがはずれたリンパ球が正常組織も攻撃するため、様々な副作用が出現してきます。例えば、甲状腺機能異常、皮膚炎、大腸炎、薬剤性肺臓炎、下垂体機能低下などです。これらの副作用については、様々な他診療科との連携で迅速かつ適切に対応できています。

2020年度の診療報酬改訂に向けて、「外来での化学療法の実施が可能な患者に対しては、外来での化学療法について説明することを求める」ことが中央社会保険医療協議会で議論されているようです。通院での安全な抗がん剤治療を目指して、今後も精進して参りますので、何卒、ご指導ご支援の程よろしくおねがいいたします。

(藤が丘病院 腫瘍内科・緩和医療科 教授 市川 度)

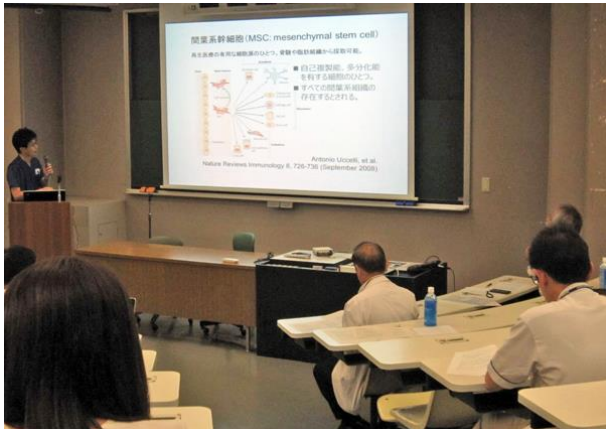
腫瘍内科・緩和医療科 2018年度患者数

疾患	患者数	疾患	患者数
頭頸部癌	5	泌尿器がん	5
肺がん	10	神経内分泌がん	7
乳がん	58	肉腫	5
食道がん	13	原発不明がん	4
胃がん	52	甲状腺がん	1
肝胆膵がん	78	悪性黒色腫	1
大腸がん	115	その他	5
婦人科がん	3	合計	388

研究発表会を開催

10月5日(土)午後、藤が丘病院C棟講堂にて藤が丘病院・リハビリ病院2019年度第1回研究発表会を開催しました。本研究会は、藤が丘病院・リハビリ病院の医学研究の活性化に寄与する事を目的とし、日頃の研究成果を研究者間で発表し合う場となり、当日は医師、コメディカル等多数の方が参加しました。

今回の研究発表会では9演題の発表があり、質疑応答では専門外の発表に質問する場面も見られ、大変有意義な会となりました。今後も定期的に研究会を開催し、藤が丘病院・リハビリ病院の医学研究の活性化を図りたいと思いますので、皆様のご協力・ご支援の程どうぞよろしくお願いいたします。



(藤が丘病院管理課 大林 真由美)

第32回 藤が丘地域連携フォーラムを開催

10月10日(木)、藤が丘病院にて第32回藤が丘地域連携フォーラムを開催しました。平成23年9月から始まった藤が丘地域連携フォーラムは32回目を迎え、今回も66施設112名と大変多くの地域医療機関の先生方や関係者の皆様、病院関係者113名と合わせ225名の方々に参加いただきました。各講演においては活発な質疑がなされ、講演会後の懇親会では意見交換が賑やかに行われていました。



なお、次回の地域連携フォーラムは、令和2年1月9日(木)糖尿病・代謝・内分泌内科、歯科の開催を予定しておりますので、多数のご参加を心よりお待ちしております。

第32回藤が丘地域連携フォーラム講演会 次第

- 1) 大きく変わった緩和ケアの考え方～藤が丘の取り組み
昭和大学藤が丘病院 腫瘍内科・緩和医療科 市川 度
- 2) 総合サポートセンターの紹介～入退院支援・退院調整の実際
昭和大学藤が丘病院 総合サポートセンター 斎藤 佳織
(藤が丘病院 医療経営戦略課 馬杉 朗子)

地域合同防災訓練を実施

10月27日(日)、総勢300名超が参加する大規模な「昭和大学藤が丘病院・リハビリテーション病院地域合同防災訓練」を実施しました。

青葉区役所、青葉警察署、青葉消防署、青葉区4師会(医師会、歯科医師会、薬剤師会、神奈川県柔道整復師会)、アマチュア無線非常通信協力会と合同で訓練を行い、模擬患者役として、日本体育大学保健医療学部救急医療学科、湘中央生命科学技術専門学校救急救命学科の方々にご協力いただきました。

当日は、全体をコントロールする災害対策本部の設置・運用訓練を始め、災害時に治療の優先順位を付けて治療にあたるトリアージ訓練、崩壊の恐れのある建物から別棟へ入院患者を避難させる訓練等を行い、青葉区とはMCA無線による患者搬送調整訓練を実施しました。



また、地域住民の方々へは災害時の当院の果たす役割を知っていただくために、青葉区における災害時医療の体制を説明した資料を配布し、トリアージ訓練を見学していただきました。その他に、青葉消防署による心肺蘇生・AED操作訓練、柔道整復師会による骨折の応急処置法の講習会を受講していただきました。

今後も、有事の際には「災害拠点病院」としての使命を果たすための機能強化と、地域連携の強化を図ってまいります。

(藤が丘病院管理課 和田 洋一)

ハロウィーンパーティーを開催

10月31日(木)、藤が丘病院こどもセンターでは入院中の子どもたちとご家族に向けてハロウィーンパーティーを開催しました。仮装をした子供たちが親御さんと一緒にプレイルームにやってきて、スタッフが作成した写真ブースで写真を撮影し、ガチャガチャの後、ささやかなプレゼントをお渡ししました。普段よりも笑顔を見せる子供たちと家族に、私たちスタッフも癒されました。子どもセンターでは年間を通し、子どもたちが楽しめるイベントを企画しています。このようなイベントが入院する子どもたち、ご家族の活気に繋がればと思っております。



(藤が丘病院子どもセンター 看護師 竹原 美帆)

スキルアップセミナー・アドバンスコースを開催

11月2日(土)、神奈川県足柄上郡にある研修施設「テルモメディカルプラネックス」にて、初期臨床研修医一年次・二年次を対象にしたスキルアップセミナー・アドバンスコースが開催されました。

4月に実施したベーシックコースは内科系手技が中心でしたが、今回は外科系手技を中心にプログラムを組み、実際に現場で使用する医療機器や本格的なシミュレーターなどを用いて実践的な手技講習を行い、参加者からは大変好評でした。また、インストラクターとして、藤が丘病院の各診療科から医師が派遣されました。セミナー終了後、研修管理委員長の市川教授より参加者へ修了証、インストラクターへ感謝状がそれぞれ授与されました。お忙しい中インストラクターとしてご協力

頂きました先生方、プログラム作成にご尽力頂きました先生方に感謝申し上げます。



(藤が丘病院管理課 鶴飼 直紀)

税の相談会を開催

11月12日(火)、藤が丘病院1階の談話スペースにて、「税を考える週間」に合わせて例年開催されている「税に関する無料相談会」が開催されました。今年も東京地方税理士会緑支部の税理士の方々がお越しになり、多くの患者さんやご家族の方が相談に訪れていました。10月に消費税が増税されたこともあり、例年より多くの方が相談に訪れ、関心の高まりを感じる相談会となりました。



(藤が丘病院管理課 大内 裕倫)

診療統計 2019年10月・11月

	藤が丘病院		リハビリテーション病院	
	2019年10月	2019年11月	2019年10月	2019年11月
外来患者数	29,513人 (1,180.5人)	27,950人 (1,215.2人)	4,841人 (193.6人)	4,429人 (192.6人)
入院患者数	16,066人 (518.3人)	16,026人 (534.2人)	5,503人 (177.5人)	5,369人 (179.0人)
紹介率	81.6%	81.3%	68.9%	70.2%
逆紹介率	72.9%	77.9%	87.3%	84.7%

《広報委員会委員》

今井 敦	原田 浩史	佐々木 春明	市川 度	小岩 文彦	川手 信行
泉 紀子	角田 博子	高木 睦子	鈴木 美穂	藤宮 龍祥	東 哲士人
岡部 圭吾	齊藤 あずさ	和田 洋一	(順不同)		